

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（8月22日-28日）の新規陽性者数は20,453人（先々週26,332人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は0.84 [最小値0.41-最大値1.07]、このうち那覇市は0.83 [0.47-1.05]でした。また、宮古は0.66 [0.26-0.89]、八重山は0.85 [0.51-1.02]でした（図1）。報告される陽性者数は、全県的に減少へと転じています。

^{*1}：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部1,565人（先々週2,327人）、中部6,128人（先々週7,910人）、那覇市4,285人（先々週5,430人）、南部6,832人（先々週8,246人）、宮古737人（先々週1,245人）、八重山665人（先々週833人）でした（図2）。感染を確認した県外からの渡航者（7日間合計）は226人（先々週318人）でした（図3）。

年齢階級別推移

年齢階級別では、40代3,059人（15%）、10歳未満3,058人と並んでおり、30代3,025人（15%）、と続いています（図4）。すべての年代で減少しており、お盆休み明けに再拡大していた20代も減少に転じています。ただし、10歳未満の減少が遅れています。今後、夏休みが終わった

影響で感染が広がらないか注意する必要があります（図5）。

入院患者数推移

入院患者数は先週末時点で772人（8月21日時点999人）であり、このうち酸素投与など中等症患者は351人（8月21日時点389人）と減少しています。一方、気管挿管など重症患者は12人（8月21日時点11人）と増えています（図6）。

沖縄県内において救急受入を担っている21の重点医療機関において、先週末時点で医師43人と看護師223人が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者などその他の理由による休職者も含めると、医師59人と看護師378人が働くことができなくなっています（図7）。いずれも地域流行の減退に伴って減少しています。

社会福祉施設

高齢者施設や障がい者施設など社会福祉施設で療養している陽性者は、先週末時点で127施設835人（8月21日時点970人）と減少に転じています（図8）。病院外で酸素投与が行われている療養者数も38人（8月21日時点58人）であり、減少はしているものの入院が必要な感染者が入院できないでいる状況が続いています（図9）。

社会福祉施設（4月以降のまとめ）

2022年4月から7月までの4か月間に、社会福祉施設において感染者を認め、県の施設支援班が介入した事例が1,142施設ありました。このうち、職員が初発であったのが762施設（66.7%）、

入居者が初発であったのが 325 施設 (28.5%)、デイサービスやショートステイなど外からの利用者 40 施設 (3.5%) でした。職員が端緒となることが多く、入居者が初発であった事例でも、そのほとんどが感染経路が不明であるため、職員由来である可能性が考えられます。

また、このうち調査時点で終息していた 1,039 施設において、最終的な感染者数を確認したところ、457 施設 (44.0%) が 1 人のみで封じ込めていました。職員が感染しても拡げることなく終息させており、感染対策が根付いていることが伺え

ます。その一方で、315 施設 (30.3%) では 5 人以上の集団感染に至っており、16 施設 (1.5%) では 50 人以上の感染を認めていました。このなかには、症状を有しながらも複数の職員が働き続けてしまった事例を多く認めています (図 10)。

なお、終息していた 1,039 施設における感染者数の総和は 6,635 人 (入居者 3,894 人、職員 2,741 人) であり、平均では 6.39 人 (入居者 3.75 人、職員 2.64 人) でした。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、新規陽性者数は減少に転じていますが、いまだ入院患者数は高止まりしており、医療ひっ迫の状態が続いています。感染の再拡大に耐えられる状態ではなく、医療非常事態宣言が解除されるまでは現行の対策を維持することが求められます。

今週の新規陽性者数は 14,000-18,000 人へと減少すると見込みますが、学校再開により子どもたちで再流行しないか注意が必要です。また、県知事選のほか、宜野湾市、本部町、大宜味村、伊是名村でも選挙が予定されており、中高年で感染が拡がらないように注意する必要があります。

入院患者数については、今週末までに 700-750 人となると見込まれます (図 12)。ただし、院内感染により入院継続となっている方々について、隔離解除が増えることが見通されており、これにより報告上は入院患者数が想定を下回るかもしれません。

昨年の経験に基づけば、このまま感染者数は減少し、12 月までは小康状態となることも期待されます (図 11)。ただし、この秋は社会活動が活発化するものと考えられ、昨年ほどは封じ込められることはなく、今後も一定規模での流行が続きながら冬を迎える可能性があります。できるだけ行動制限を回避しながらも、感染対策との両立を

図ることが求められます。とくに運動会や修学旅行など、子どもたちにとって大切なイベントも予定されているかと思います。中止や延期を前提とすることなく、適切な感染対策により開催できる方法について専門家にご相談ください。

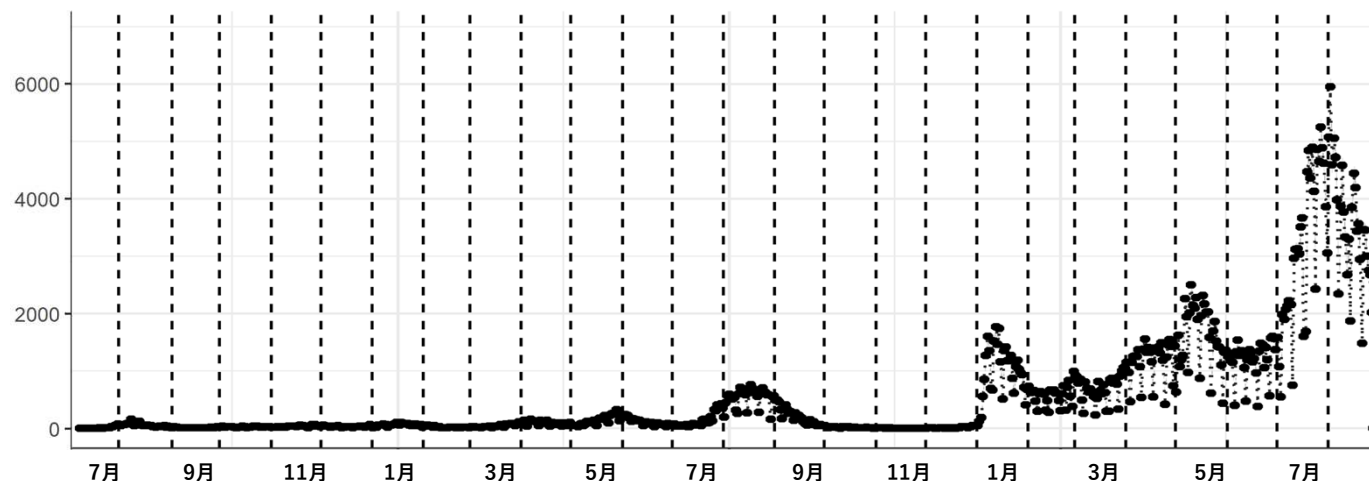
なお、沖縄県内におけるインフルエンザの定点報告数は、8 月 15 日の週には 18 人 (北部 1 人、中部 10 人、那覇市 2 人、南部 4 人、宮古 0 人、八重山 1 人) と横ばいで推移しています。今週以降、学校が再開されることで、子どもたちで流行が始まる可能性があります。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

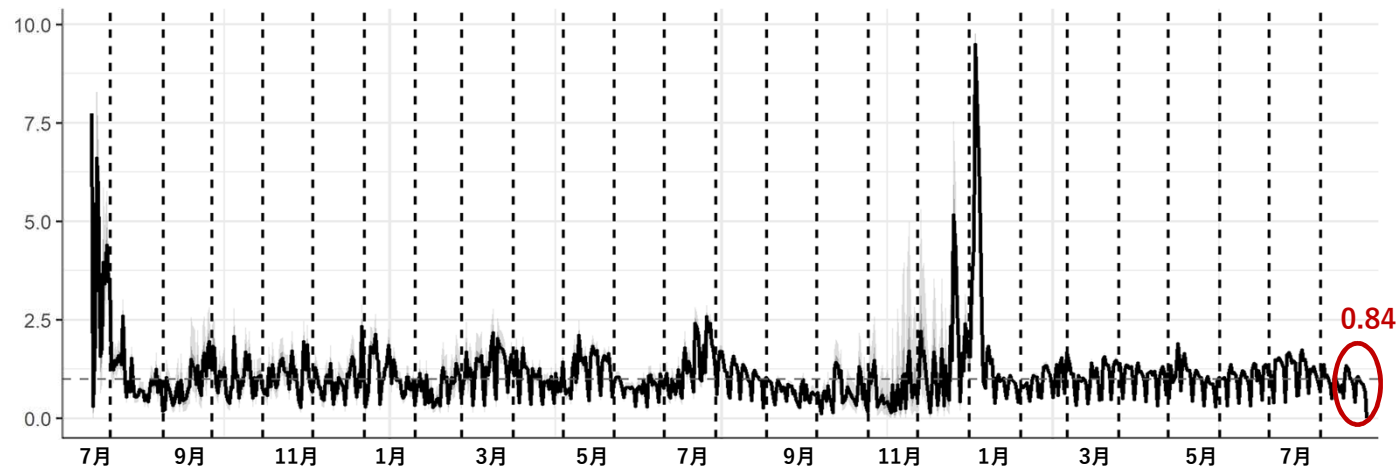


図2 保健所管区別にみる新規陽性者数の推移（沖縄県）

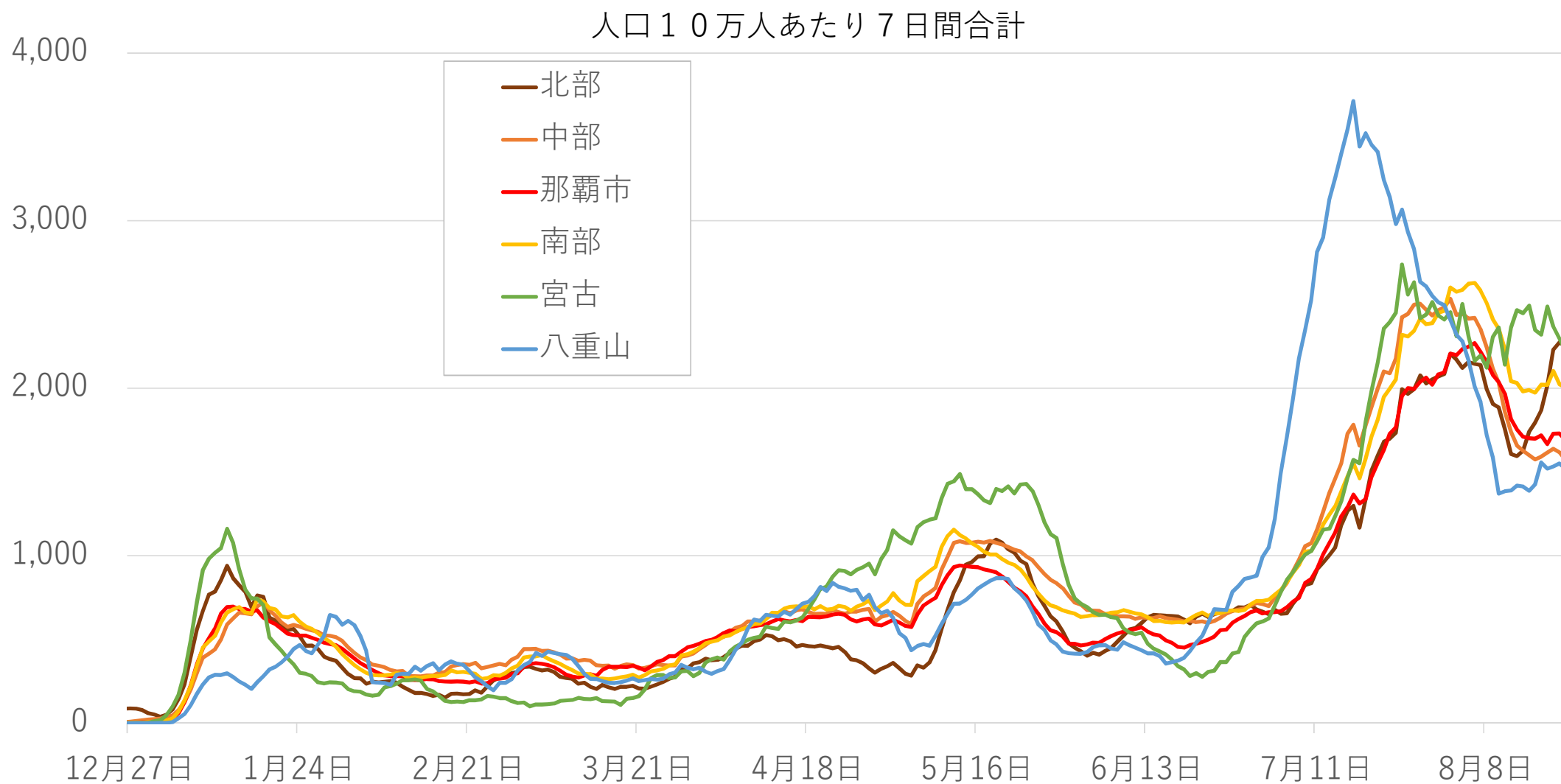


図3 県外からの渡航者における新規陽性者数の推移（沖縄県）



図4 性年齢階級別に見る陽性者数（8月22日～28日）

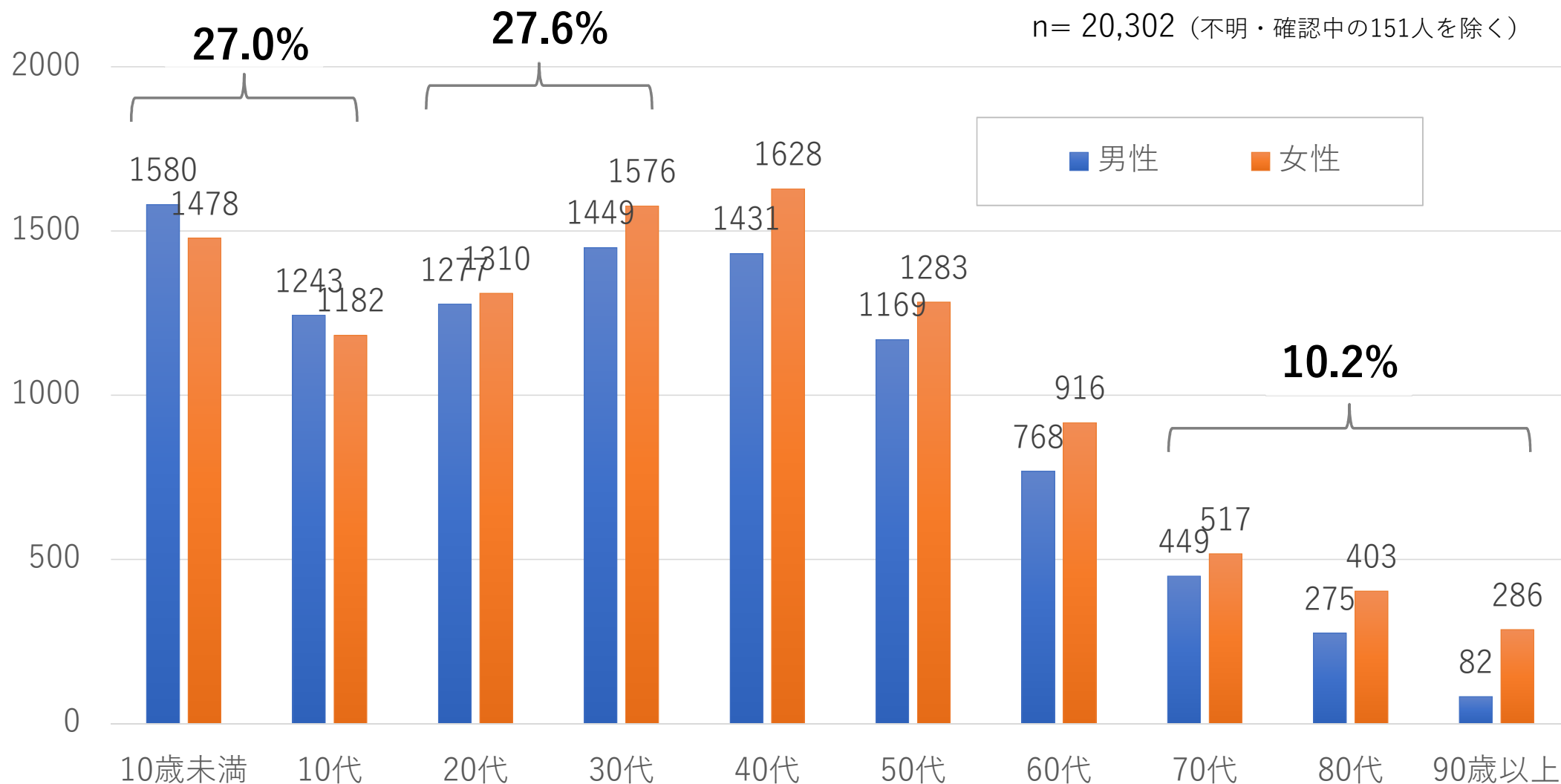


図5 年齢階級別にみる新規陽性者数の推移（人口10万人あたり7日間合計）

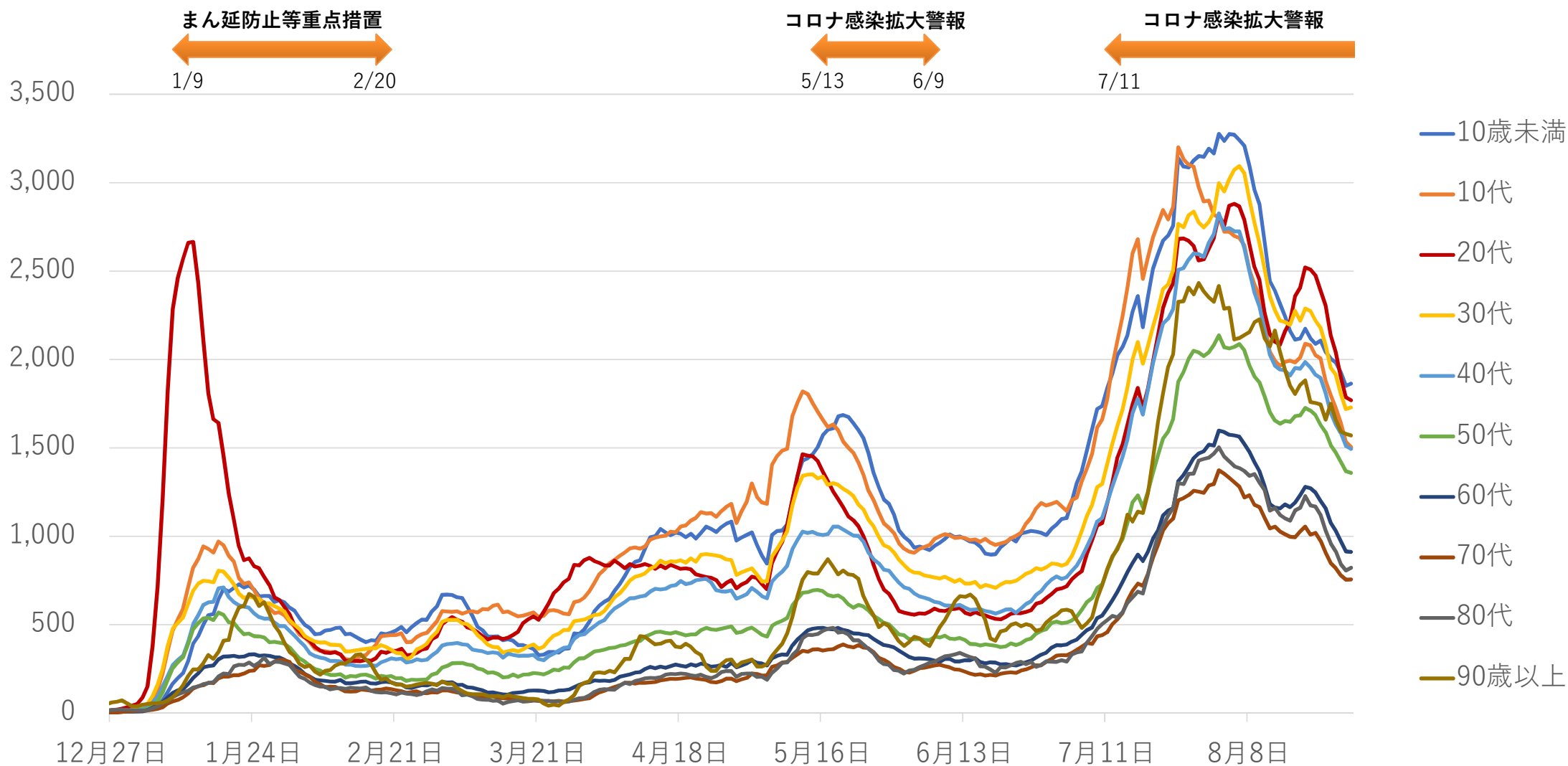


図6 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移

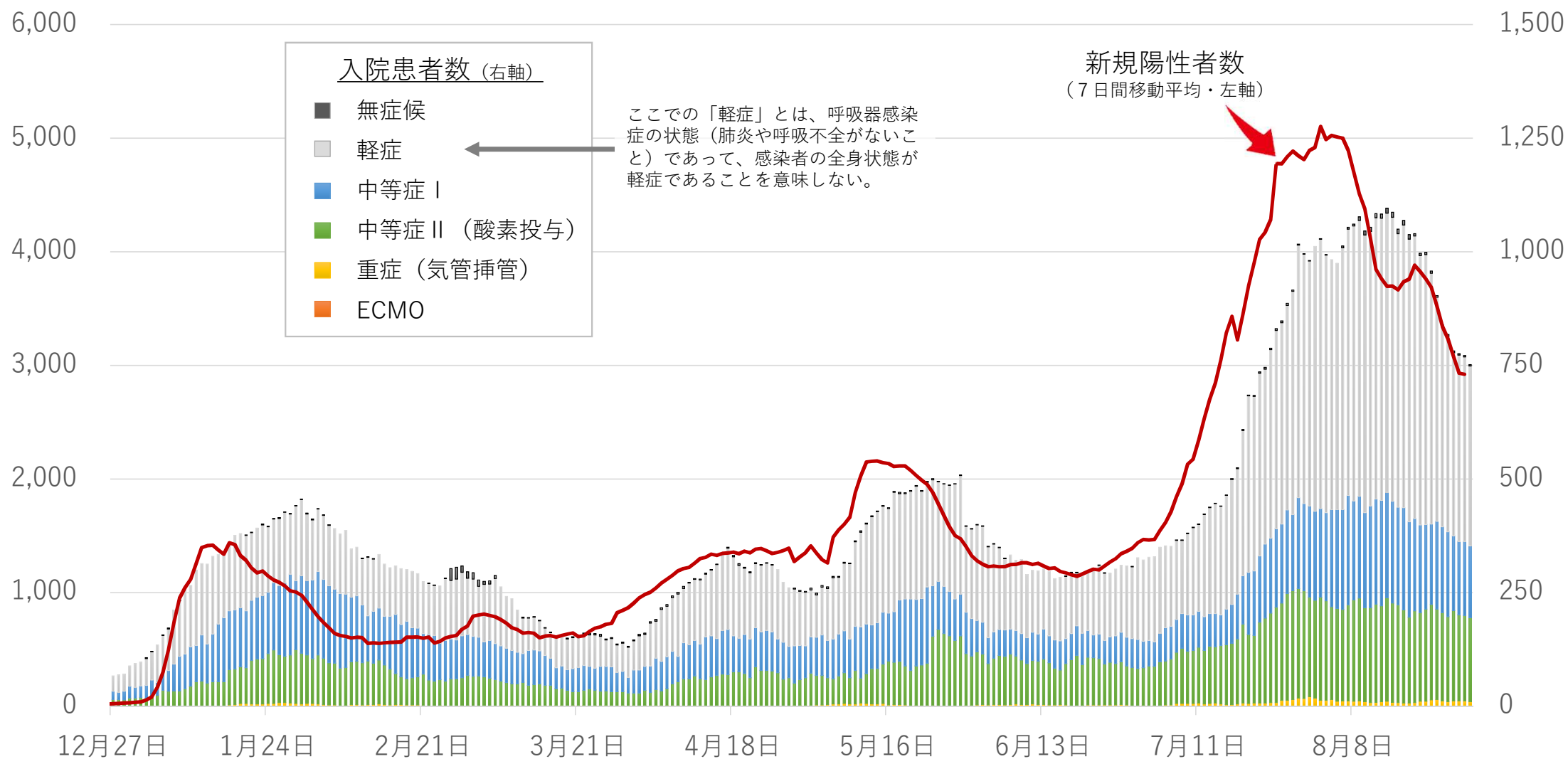
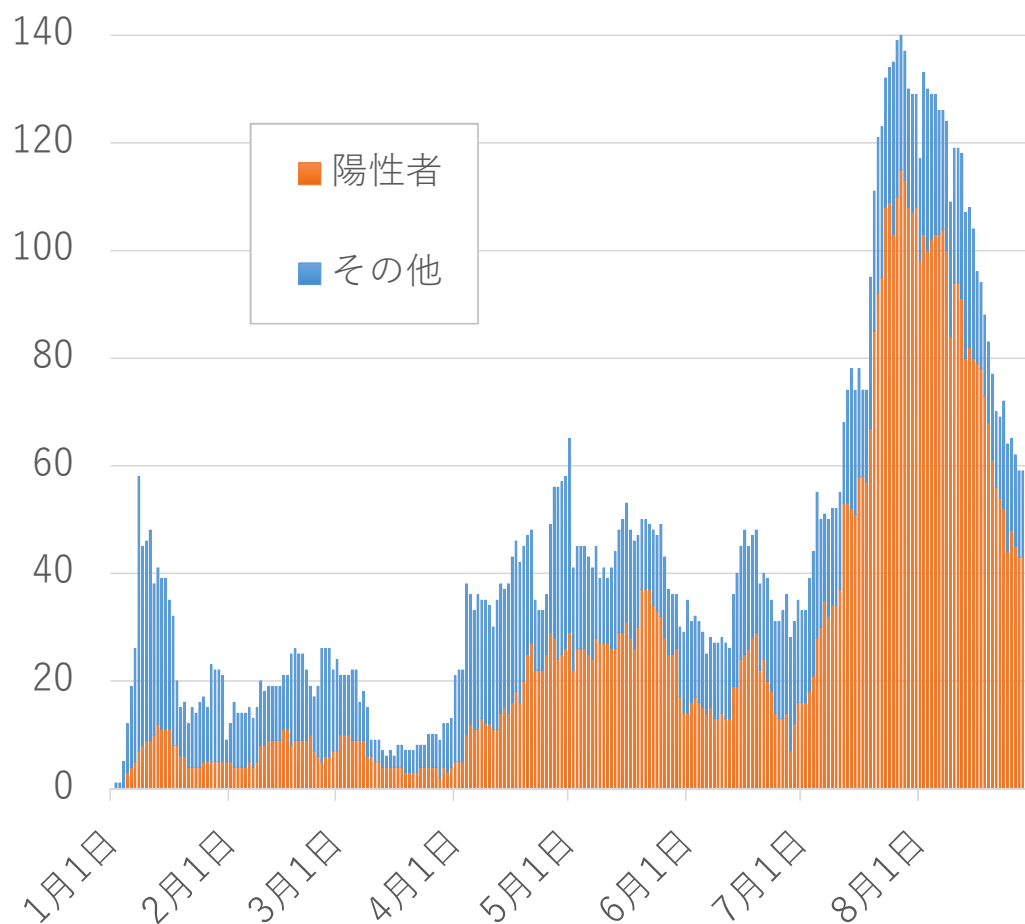


図7 重点医療機関（21病院）における医師、看護師の休職数

医師



看護師

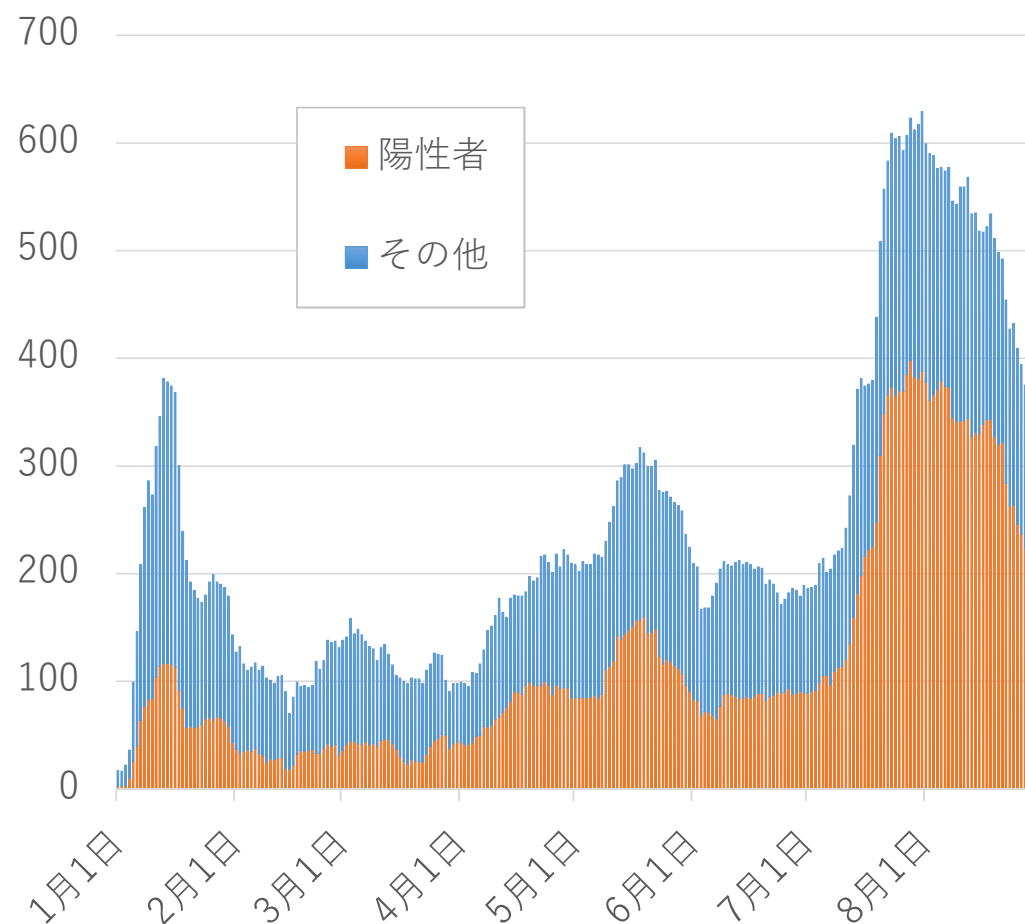


図 8 社会福祉施設における施設内療養者数

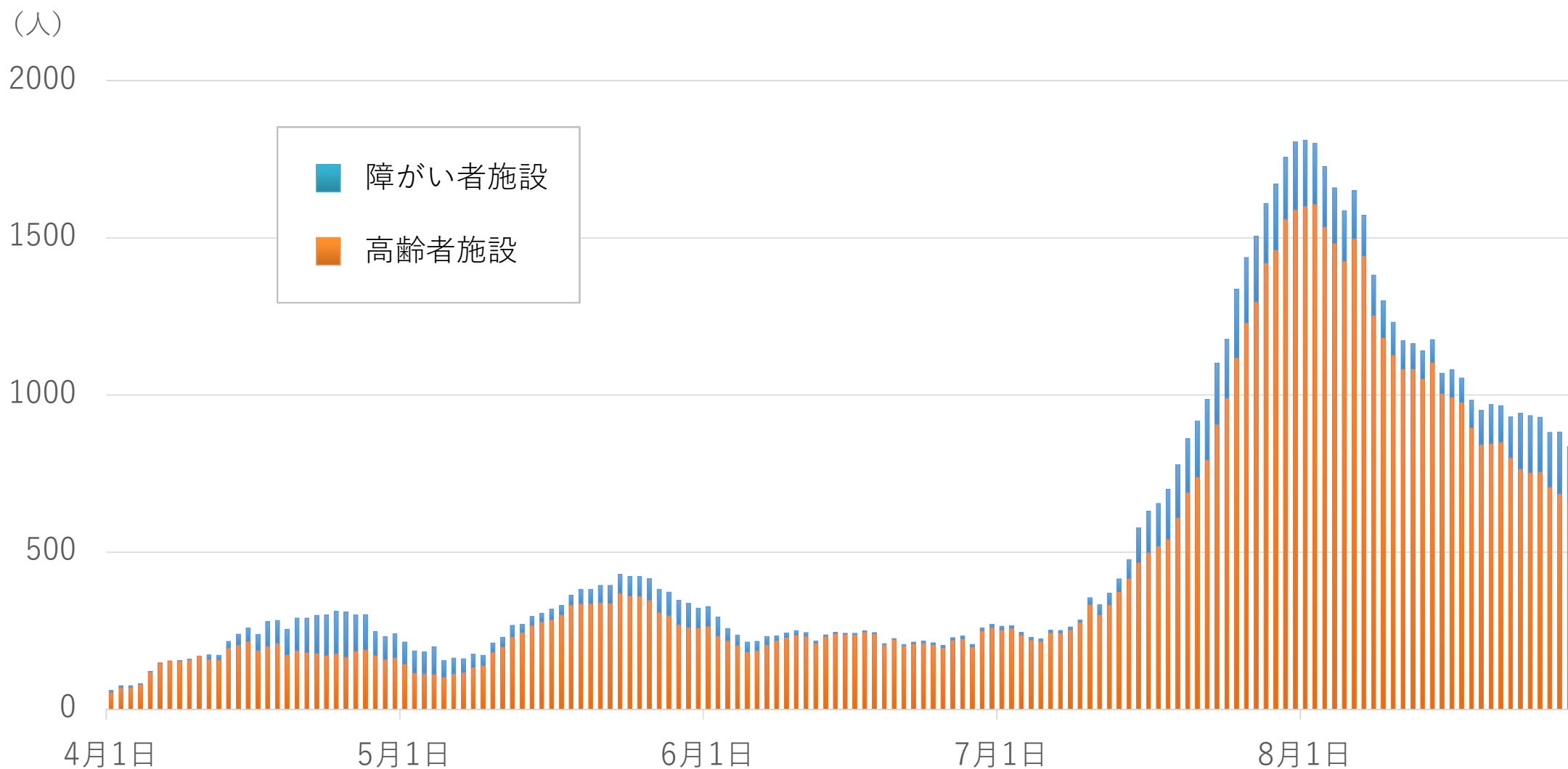


図9 病院外において酸素投与が行われている療養者数

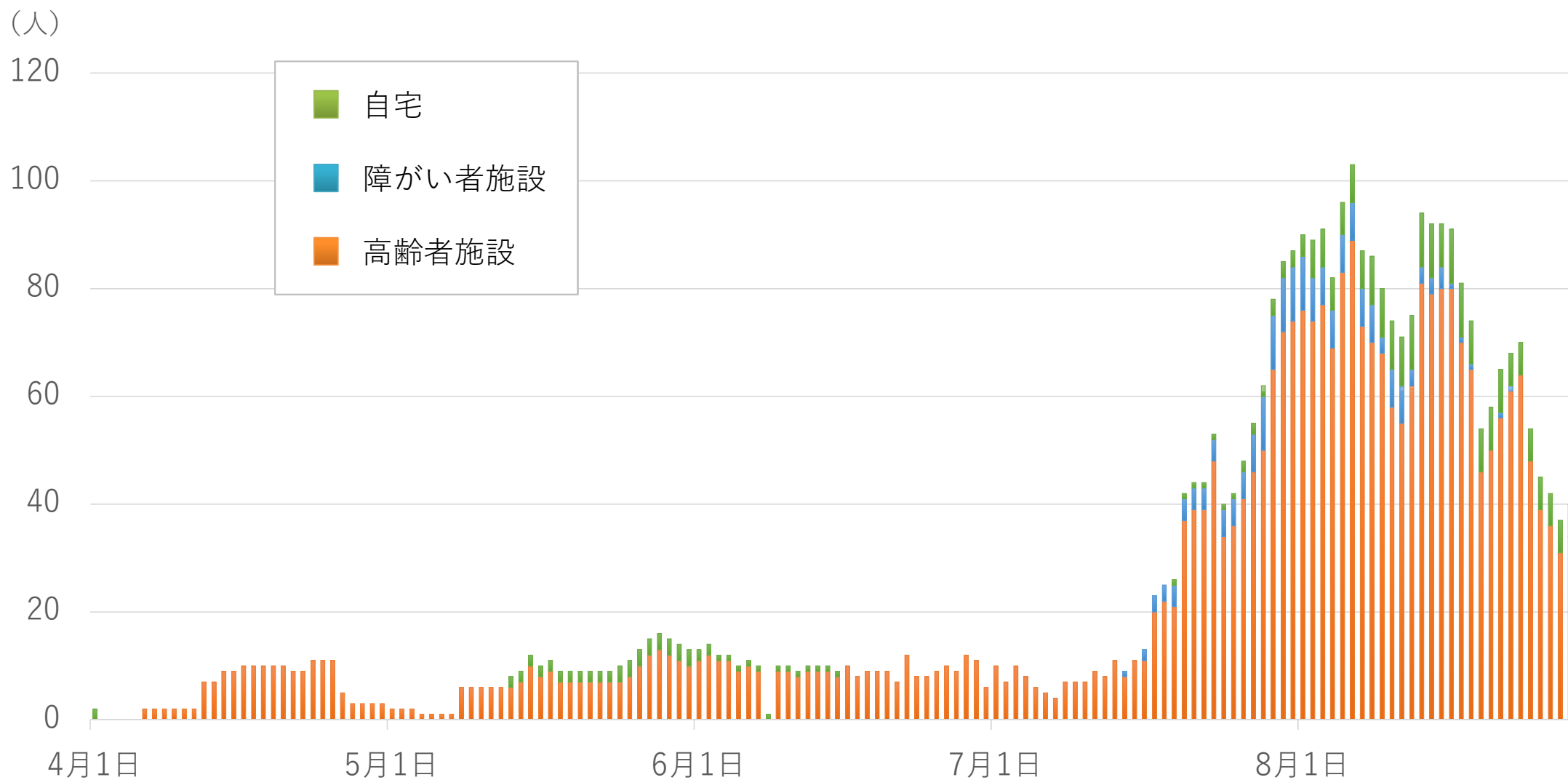
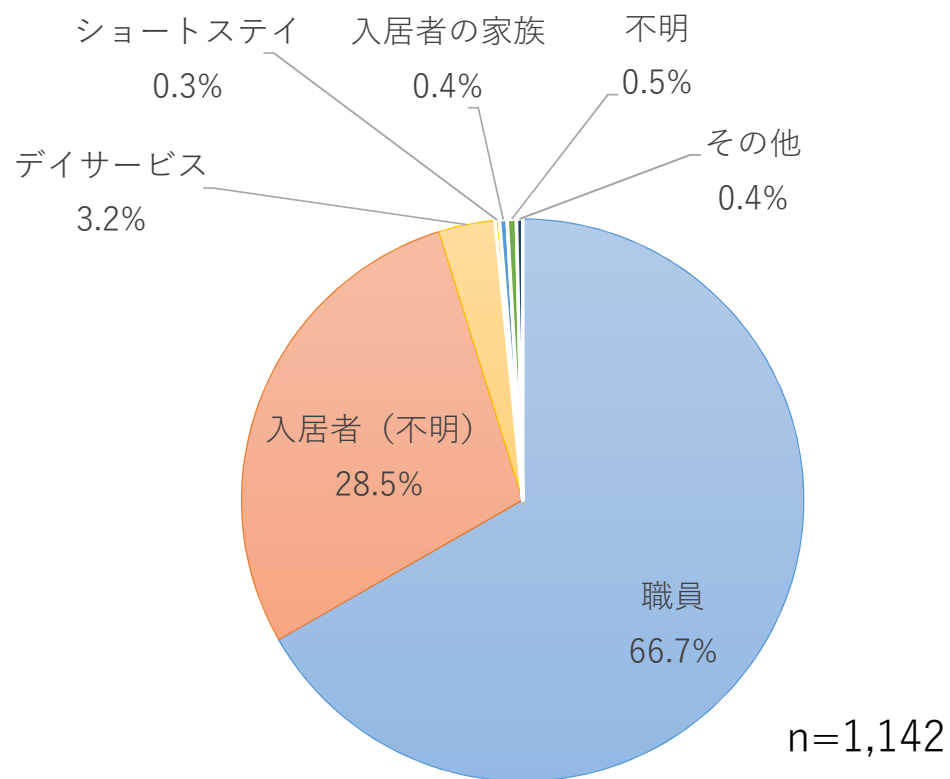


図10 社会福祉施設における初発例と感染者数（沖縄県）

施設支援班が介入した社会福祉施設数（2022年4月～7月）

施設内における初発例



最終的な感染者数

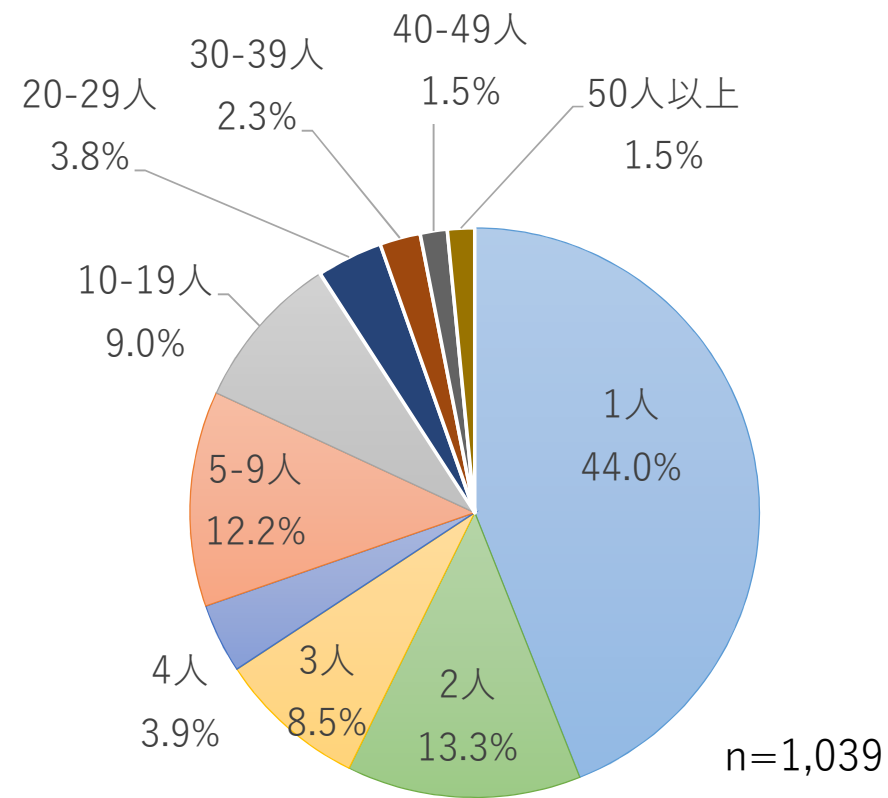


図11 沖縄県における前週比（7日間移動平均）の推移

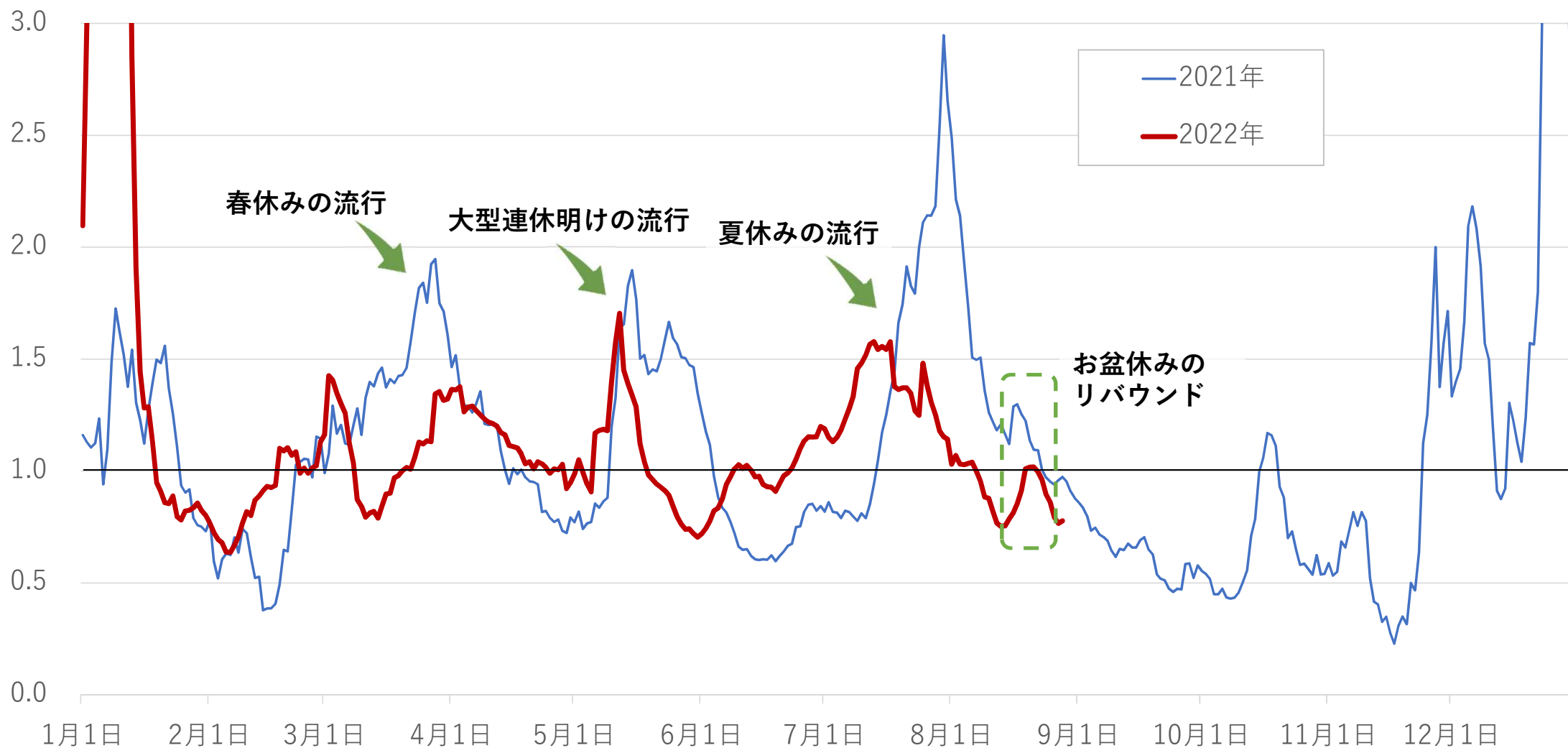


図12 今後 1 週間（8月29日-9月5日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（9月5日時点）		
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	9,331	18,791	37,840	616	749	967
宮古圏域	366	737	1,484	15	19	26
八重山圏域	335	675	1,359	10	14	21
合計	10,033	20,203	40,684	641	782	1,014